

汗だくのラウンドを終えてスリッパに履きかえ、浴室に入った瞬間、目が涼感を覚えました。兵庫・千刈CCです。スリッパが全部きちんと外向きになり、測ったように揃えられていました。平目でビジーも少なくないはずですが、ここまできれいに並んでいると視覚的に訴えるものがあり、みんなその作法にいらいます。しばし観察していたら、なかには気づかず内向きに脱ぎ捨てて行く人もいましたが、それを係の人だけでなく、出入りするメンパーが屈んで置き直していました。メンパーの力を見る思いでした。バンカーで人が直し忘れた

AZAMI

あざみ
の教え

上級より
上質。
ゴルフマナー
修得講座

スコットランドの国花。短い夏のラウンドに咲く可憐な花。花のなかの平丸を打とどしたゴルフマナーにこの先住者は朝の花で平和な暮らしを営み権利はのびたセントアンズ・クラブの聖人アンリ・ルベが論じて、アマチュアに宣託されたという逸話が残っている。

鈴木 康之
挿画 ● 唐仁原教久

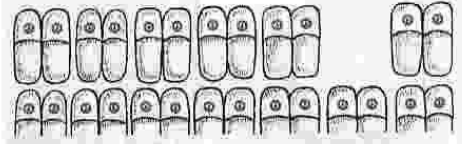
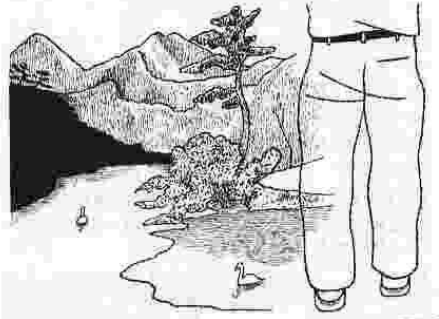
足跡をならしたり、不適切に置かれたレーキを置き直したりするのと同じこととしてしよう。「月曜日のセルフデーになるとビジターが多いので、スリッパはバラバラになります」と支配人の池戸秀行さんは苦笑します。メンパーとはありがたいものです。コースへ一キロ半ほど上がつてくる進人路があります。周辺の便利な抜け道でもあるため、道端にコンビニの袋などが捨てられます。こういう

物は一個あると同類を誘い、どんどん増えていきます。そして月に一回みんな拾ってなくします。「イタチこっこですが、なくなるまで諦めずにやり続けませんとね」と常務理事の和暮克彦さん。穏やかながら決意が伺える笑顔で「おっしゃいます。千刈は千苜遊水池を擁した美しい丘陵地。稲穂千束を収穫できたという農地の豊沃に由来する古い地名です。そんな昔日から眠っていたこの丘

陵地を、将来、自然教育の場として生かしたいと着目し、夢を語ったのが関西学院の教育者たちでした。

自然教育の場という思いが先で、具体案は後。いろいろ拳がった案の中の一つがゴルフ場でした。ゴルフの古書をひもとくと、昭和中期までの有識者や実業家たちが、ゴルフは知育、体育、徳育に役立つと提唱したり、自然を学ぶには最適と推奨した記録が数々散見されます。

英国人、ジョー・E・クレインさんの設計で十八ホールが完成。関西学院千刈CCを千刈CCと改称、一般に門戸を開いて、一九六五年(昭和



四十年)開場しました。

その時から、ここに通じる緑濃い自然道沿いの電信柱は、関西電力に頼んでタークグリオンに塗ってもらったというこだわりようです。多種類の野鳥が宿るバードサンクチュアリの観望えある

自然が育っています。千刈CCのティーマーカーは白鳥の形をしています。白鳥がこのシンボル。いま平井池にいるのはすてに何代目かになる二羽で、今日に至るまでには、従業員やメンパーたちが、野犬など困った外敵との不屈の戦いを繰り返してきたそうです。

クラブハウスから一番ティへ向かうところに「NOBLE STUBBORNNESS」と刻まれた石碑があり、スタートして行く者に誓いを新たにさせます。「高貴なる粘り」、これこそは関学に伝わるスポーツマンシップです。



新書判、並製
定価900円税別

千刈CCの品格
向上への冊子
鈴木康之著
「ゴルフの
スピリット」(小社刊)
などがあ



諸君、ノーブル・スタボーネスを!

